

前方ボードやはね上げ手すりなどが 座位を安定させて力も入れやすいトイレ。



オストメイト配慮設備が用意されたトイレ。スイングタイプの前方ボード、はね上げ手すり、背もたれ、格子状手すりなどが備えられている。小便器以外のトイレは、すべて男女兼用。

2019年5月に杉並区に開設した、社会福祉法人サンフレンズが運営する小規模多機能型居宅介護サービスを提供する「小規模多機能ホーム」です。特別養護老人ホーム「上井草園」に併設し、6つの宿泊室と通いのスペースを保有。「通い」「訪問」「宿泊」の3つのサービスを提供し、それぞれのお困りごとに寄り添いながら、住み慣れた地域、住み慣れた家での暮らしを続ける手助けを行っています。



特別養護老人ホームと併設する形で運営され、地域の安心を支える拠点となっている。

「通い」「訪問」「宿泊」の3つのサービスで 在宅をベースにした介護を支える。

21年間にわたって認知症の方々にも対応するデイサービス事業を行ってきた「上井草ふれあいの家」が大規模な改修を行い、小規模多機能ホーム「おあしす上井草」に生まれ変わりました。2階建ての建物の1階フロアを改修。杉並区にはデイサービスの施設も多いことから、より地域に根ざした特色のあるサービスを提供し、さまざまな方法で在宅での介護を支えようとしています。

大きくは、既存施設の中庭に隣接していた通所デイサービス部分を改修し、宿泊室と専用の浴室を新設。トイレも使いやすさを考慮しながら数を増やし、湿式清掃から乾式清掃への変更なども含めて掃除のしやすい清潔さのある空間が生まれています。感染対策のためエントランス横に手洗い器を設ける工夫も施されました。

「おあしす上井草」の名前の通り、「落ち着く」「安心する」「信頼のおける」「スマイルのある場所」(それぞれの頭文字をつなげると「おあしす」)であり続けることを目指しています。



中庭には小鳥が卵を産みに来るなど、微笑ましい光景や季節の移ろいを感じられる。

おあしす上井草

- 竣工年月 / 2019年4月
- 所在地 / 東京都杉並区上井草3-33-10
- 施主 / 社会福祉法人サンフレンズ
- 設計 / ケアスタディ株式会社
- 延床面積 / 3,934.23㎡
- 定員 / 登録：29名
通い：18名
宿泊：6名



エントランス横に新設した手洗い器。利用者が訪れた際に、すぐに手洗いを行う習慣が付いた。



まるで家庭にいるようにリラックスできる、温もり感のある共同生活室。中庭につながる開放的な空間であり、床には無垢のフローリングが広がっている。

すべての宿泊室から 使いやすい位置にトイレを配置し 後方アプローチで介助もしやすい。

トイレの配置は、まず6室の宿泊室から便利に快適に使えるように、3部屋ごとに近い位置に共用トイレをレイアウト。利用者のさまざまな身体状況に対応できるように、左右勝手に配慮した設計になっています。また、車いすでの利用において身体を回転させる角度が小さくて済むように、便器後方からの「後方アプローチ」のできる設計とし、利用者の使いやすさを向上させ、介助の負担も減らしています。トイレには、便器への移乗や排泄姿勢の保持などをサポートする、スイングタイプの前方ボードを採用。さらには、はね上げ手すり、背もたれ、格子状手すりなどを設置して、どんなプロフィールや体格の人でも使いやすくなっています。男性の利用者への配慮としてはその年代に合わせ、昔ながらの使い慣れた小便器のあるトイレも設け、好みに合わせて使えるように配慮。腰掛便器で立ち小便をして汚してしまう利用者には、小便器への誘導を促しています。いちばん広いトイレにはオストメイト配慮設備があり、バリアフリー法の基準をクリアしています。

【改修前】

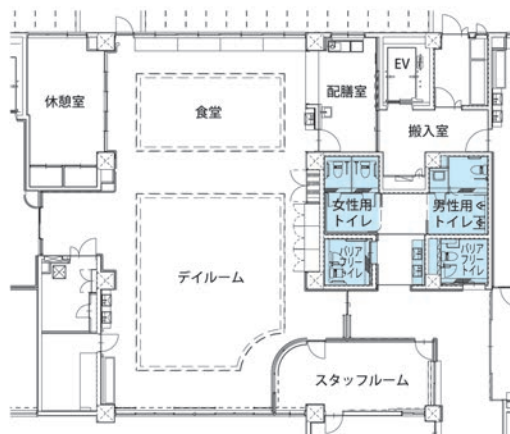


改修前の男性用トイレ。湿式であり、清掃が大変だった。



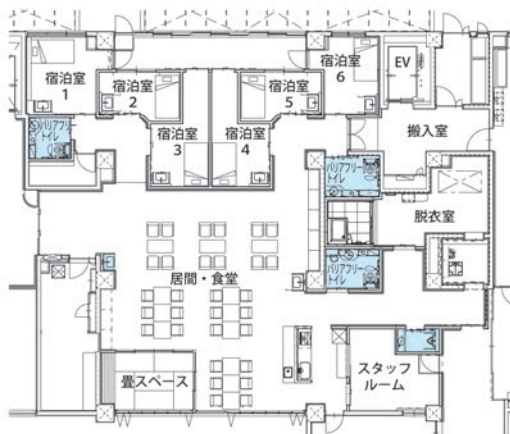
改修前の手洗いコーナー。

改修前



1F平面図

改修後



1F平面図



スイングタイプの前方ボード、はね上げ手すり、背もたれ、格子状の手すりなどが備えられた共用トイレ。格子状の手すりは体格に合わせて使いやすいというメリットがある。



後方アプローチによって、車いすの利用者でも介助のしやすいトイレ。壁材、床材、収納、設備などが温かみのある色調で統一され、癒しの空間となっている。

voice 所長さんからの声

手すりなどが可動式だと必要に応じて使えます。



おあしす上井草
小規模多機能ホーム
所長
塩澤恵さん

トイレでは、はね上げ手すりや前方ボードは可動式ですから必要に応じて利用でき、使いやすくなったという声が聞かれます。特に前方ボードは姿勢が不安定な方でも座位を支えられるし、力を入れやすいそうです。それに、手すりが今までのように金属製だと冷たいのですが、温かみのある素材だとしっかりつかんでもらえて良いと感じます。また、今までは建物の入口に手洗い場がなかったのですが、入ってすぐのところに手洗いを設けたのは、コロナに限らず感染症対策としてとても良かったと思います。運用面では、基本的な「うがい・手洗い・換気」などをしっかり行う方針です。トイレは以前から利用ごとに消毒していたので、これまで同様に対策を継続しています。

温かみのある自然素材を取り入れ 万一の転倒対策も素材や構造から考慮。

改修ではなるべく自然素材を多く取り入れ、特に身体に触れる部分には温かみのある木の素材を使うなど工夫されています。床は柔らかすぎる素材にすると車いすの走行に不向きなので、メンテナンスもしやすい無垢のフローリングを採用。配管のために15cm上げた二重床にしているのが、万一の転倒時にもたわみが生じ、ある程度の衝撃が吸収できるようになっています。落ち着く、安心できる信頼の場で、スマイルが広がります。



男性用トイレの小便器は手すり付きで使いやすい、壁掛けタイプで清掃しやすい。



使いやすい高さを考慮した、男性用トイレの手洗い器。自動水栓が採用されている。



浴室の入口には、床のフラット部とスロープ部の切り替えが分かりやすいように、UDフロアを採用。ほどよい低めの突起高によって、検知をサポートしている。

voice 設計担当の方からの声

介護の変化にも合わせ「攻めの改修」を行いました。



ケーススタディ株式会社
代表取締役
間瀬樹省さん

老朽化への対応や設備の入れ替えとは違い、地域に求められる事業へ転換を図る「攻めの改修」でした。小規模多機能施設への転換の場合、宿泊室を設ける必要があるのが法規制への対応で苦労しますが、行政との協議を重ねて対応しました。小規模多機能施設はデイサービスとは違って宿泊もある場所なので、より住宅に近い居心地を目指して色合い、素材、照明などさまざまな配慮を行いました。照明計画は、高齢者の使う空間は明るくしがちですが、白内障対策も含めてまぶしさを抑える適度な明るさに配慮。調光機能付きのLEDで、住宅用の温かみのある色を採用しています。



宿泊室の避難経路を確保し、法規制に対応するためにも設けた屋内テラス。用途変更による設計上の苦労も多かった。



家庭的な落ち着きを重視して壁材や床材を選択している宿泊室。洗面器は利用者のプロフィールに合わせて、使いやすい高さに昇降させることができる。

voice 理事さんからの声

時代や地域のニーズに積極的に応えたいです。



社会福祉法人サンフレンズ
理事
笹室学さん

介護保険制度の変化に合わせて、時代や地域のニーズに応えるために事業内容を転換し、私たちが目指していた姿に立ち返ることにしました。施設の新しい姿を見て、過去を知っている方はびっくりされます。ただ、見学で中庭から雰囲気を見てもらうと、一目瞭然で小規模多機能ホームの意味を感じていただけるようで「自宅の延長としての、家庭的な雰囲気のサービスなのね」という声も聞かれました。

voice 施設管理ご担当者からの声

サービスの質が向上できていると感じます。



おあしす上井草
管理者
計画作成担当者
飯田智志さん

1996年に1日定員15名でデイサービスを開設。介護保険制度が創設された2000年から徐々に登録人数を増やし、最終的には定員が60名以上の大規模デイになりました。現在は登録定員29名の小規模多機能ホームとなり、サービスの質も向上できたと感じます。水栓は開設当初は利用者が使い慣れたレバー式でしたが、コロナ禍で区の前算が付き、トイレ内の手洗いは感染症対策のため自動水栓に変更しています。